



平成 26 年 3 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社省電舎  
代表者名 代表取締役社長 中村 俊  
(コード番号 1711 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役管理本部長 嘉納 毅  
(TEL. 03-6821-0004)

### インドネシアにおける PKS の炭化事業にかかる基本合意契約締結について

当社は本日 PT. World One Indonesia (JAKARTA 代表取締役 吉田直記)(以下「WOI」という)と、インドネシアにおけるパームヤシ殻(Palm Kernel Shell:以下「PKS」という)の炭化事業について基本合意契約を締結いたしました。

インドネシアはマレーシアと合わせると全世界の 85%のパーム油を生産している世界最大のパーム油産出国であり、当社はパーム油搾り後に残るこの PKS をバイオマス発電に供する燃料として着目し、これまで PKS の燃料としての可能性を追求してまいりました。

当社グループは再生可能エネルギーの中で安定電力供給源に成りうるバイオマス資源を活用した発電事業を推進しており、現在、廃棄物である食品残渣を資源化するメタン発酵によるバイオガス発電所の EPC 事業を行っております。同時に当社グループにおけるバイオマス資源の活用施策としてバイオマス発電所を保有する事を目的としたIPP事業も推進しており、メタン発酵によるバイオガスプラントを当社が提供し、食品飲料工場より排出される食品残渣からバイオガスを発生させ発電する事業モデル(BO Sスキーム:Biogas On Site Scheme)を構築致しました。

メタン発酵によるバイオガス発電事業以外にも、バイオマス資源を活用する発電所を建設・保有するバイオマス発電事業も将来的に計画しております。バイオマス発電事業において、安定的な発電を維持するためには、燃料の安定的な調達が必要であり、特に PKS に関する安定的な調達は最大の課題となっております。

WOI はインドネシアにおいて既に国営農園からの協力を得、安定的に供給する体制を有しております。さらに各農園からの PKS 収集をシステム化し、提供価格を安価で抑えることに成功しております。また、その品質に関しても日本人によるクオリティ・コントロールにより、信頼に値する PKS の提供が可能であります。

当社とWOIで計画するこの炭化事業は、インドネシアの国策にも合致しており、当事業において世界的に注目を集めているインドネシア産 PKS を炭化することにより、高カロリー化、高燃焼率を実現させ、同



資源を有効かつ多目的に利用できるよう加工するプロジェクトであります。加工することによってミルでの破砕性が向上し、それと同時に石炭やコークスに匹敵または凌駕するカロリーを有するバイオマス燃料となるが、微粉炭PCボイラー向けなどの燃料としてだけでなく、将来的に原料炭や活性炭等新たなバイオマス製品としての活用が可能であると判断し、当該契約を締結いたしました。

まず当社の取引先に対し、WOIより調達する未加工PKSの販売を開始し、それと並行して既に実証に成功している炭化PKSの再現性と大量生産化展開の確認を半年を目処に行い、その後国内のバイオマス発電所及び石炭火力発電所向けに炭化PKSを高品質の「バイオマス・コークス」として提供していく予定です。

以上